

● 札幌市が実施する要介護高齢者への取組の現状と課題

札幌市においては、地域包括ケアシステム構築の一環として、在宅歯科医療の充実が大変重要な要素となることから、地域の歯科医師や歯科衛生士を対象に、在宅歯科医療に関する研修事業を実施しています。また、介護保険施設における口腔衛生管理の充実や歯科医療関係者との連携促進を図るため、介護保険関係職員を対象とした口腔ケア研修事業を実施しています。

令和5年度に実施した介護保険施設を対象に実施した調査によると、定期的な歯科健診を実施している介護保険施設は52.1%にとどまっており、今後のさらなる普及が望まれる状況となっています。

要介護高齢者は、誤嚥性肺炎の発症リスクが極めて高いことに加えて、口腔乾燥等により歯科疾患も重症化しやすいにも関わらず、適切な歯科医療に繋がっていない状況も見られます。このため、介護保険関係者に対する口腔ケアに関する研修の充実や在宅歯科医療等の歯科医療の提供体制の充実が課題となっています。

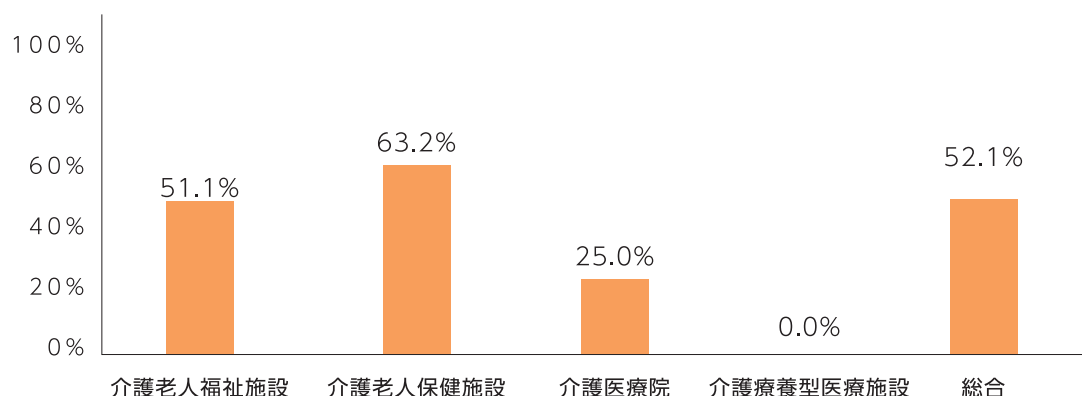
また、施設入所者については施設職員による一定の口腔管理が期待できるものの、在宅の要介護高齢者は口腔衛生管理が十分に行われない場合もあります。このため、在宅歯科医療の充実だけでなく、歯科医療に繋がっていない方を歯科医療に繋げていくための訪問歯科健診の普及が期待されます。

さらに、介護現場やご家族等からは摂食嚥下障害の対応に関するニーズが極めて高い他、認知症の方に対する適切な歯科医療の提供体制を求める意見もあり、今後、検討すべき課題となっています。

その他、近年、高齢者における根面う蝕（歯ぐきが下がった部分にできるむし歯）の増加も課題となっていることから、フッ化物応用を含めたう蝕予防対策が求められています。

● 介護保険施設入所者に対する定期的な歯科健診の実施率は約半数

図 3-8 高齢者施設別の定期的な歯科健診実施施設割合



(令和5年度 札幌市内の高齢者施設における
歯科保健サービスの提供状況を把握するためのアンケート調査より作成)